



クレメンティ校だより

令和2(2020)年
4月30日発行

THE JAPANESE SCHOOL, SINGAPORE Primary School, Clementi Campus

見せましょう シンガポールの教育

魅せましょう クレメンティ校の底力

ご存じのように世界中が新型コロナウイルスと闘っている毎日が続いています。当たり前に行えていたことが制限され忍耐を強いられる生活は、大人の我々にとっても苦痛なのですから子どもたちは尚更のことと思われまます。

本校では、4月13日より在宅学習を行っております。突然のサーキットブレーカーの発令に準備する時間が非常に少ない中でのスタートでした。当然のことながら、接続の問題ですとか、学習内容の事ですとか様々な問題が生じましたが、それも2週目、3週目と回数を重ねるうちに改善していくことができました。子どもたちの頑張りに大きな拍手をしたいと思います。もちろん保護者の皆さまの甚大なご協力があってこそこの在宅学習であります。様々な面でのご理解・ご支援に本当に感謝申し上げます。

そして、本校職員の頑張りも素晴らしいものがあります。4月に着任する予定だった先生方12名が不在の中、本来ならば音楽や理科を担当してもらう先生方にも急遽、担任に入ってもらっています。日夜、在宅学習の準備、学年会、欠席児童対応、保護者対応等に取り組んでいます。世界中に多くの日本人学校がありますが、この様な取り組みができている学校はそう多くはないはずです。日本国内の学校もしかりです。

私は校長として胸を張って言いたいです。クレメンティ校の取り組みをぜひ見ていただきたいと。これも今まで積み上げてきた本校の底力と言えます。

昨年の5月の学校だよりにこんな話を載せていました。

子どもたちは、様々な学習経験を経て成長していきます。その成長を促す要素はたくさんありますが、あえて3つ挙げてみます。＜子どもの3C＞

- ① **Chance** 自分を伸ばすチャンスに出会う。
- ② **Choice** チャンスの中から、がんばってみようと思う事を自分で選ぶ。
- ③ **Challenge** やろうと決めたことを最後まであきらめずに挑戦する。

子どもが、ChanceをChoiceしてChallengeできるようにサポートするのが教師や親や大人の役割であると考えます。

サポートのチャンスを逃さないよう、互いに努力して参りましょう。

(文責 池田 潔)

クレメンティ校の在宅学習

2020 突然のサーキットブレーカーのもとで

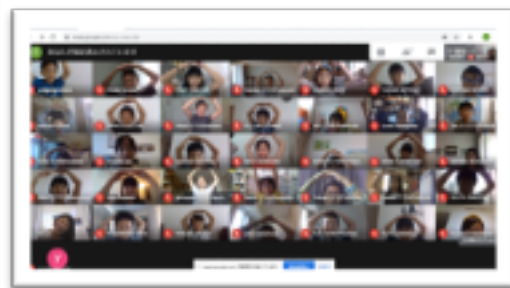
4月始め、Lee 首相の突然のサーキットブレーカーの発表を受け、在宅学習を実施することを決めました。日ごろより ICT を活用した教育活動に力を注いできたクレメンティ校ではありますが、実際に在宅学習に取り組むにあたり、オンラインでの授業作りがどこまでできるのか、学校に使えるリソースはどれだけあるのか、担任全員が在宅でどこまでできるのか、どのような準備をすれば開始できるか、いつまで時間があるのかと、様々な懸念が考えられました。



何はともあれ、教科書を配って当該学年の内容がわかる状態を作らなければなりません。また、オンラインでの学習ができる環境を作るために、学校にあるリソース（デバイス）もお届けしなければいけません。800名近くの教科書と約500台のChromebookをお渡しすることができるチャンスは、わずか1〜2日。週末の土日返上で準備に取り組む先生方でした。

そして、いよいよ接続テスト。みんなクリックできるのだろうか？マイクのボタンがわかるだろうか。クラスルームに入れるだろうか？ここでも、心配ごとが山積します。各学級担任は、接続の問題やデバイスの設定の問題など、日頃の学習内容への対応とは違った側面の問題を解決して行きました。

授業科目	1学期 (1月)	2学期 (2月)	3学期 (3月)	4学期 (4月)	5学期 (5月)	6学期 (6月)
国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語
算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数
英語	英語	英語	英語	英語	英語	英語
理科	理科	理科	理科	理科	理科	理科
社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術
総合	総合	総合	総合	総合	総合	総合



在宅学習基本方針

文部科学省は、4月20日に次のような通知を在外教育施設に示しました。（抜粋）
「児童生徒への学習指導については、規則正しい生活習慣を身に付け 学習を継続するとともに、学校の再開後も見据え、児童生徒との関係を継続できるよう可能な限りの措置をとることが必要」

クレメンティ校では、単に課題を与えて自習を行い、結果を提出するだけでは十分な在宅学習に取り組めないであろうとの考えから、学校に登校した時と同じように時間割を組み、学習進度に違いが出ないように、学年ごとに授業づくり、課題の設定、学習ガイド、そして子どもと教師、子ども同士がつながれる工夫を行っていくこととしました。

- ① 毎日、決まった時間に始まり、決まった時間までは学習に取り組めるようすること
- ② 担任と子どもたちの関係、子ども同士の関係作りができる工夫をすること
- ③ 教科書を基本とする教科学習に取り組み、学年の授業進度を揃えること
- ④ 子どもたちに過重な負担を強いることなく、分かる楽しい授業づくり・授業改善に取り組むこと

およそ3週間の取り組みから、より質の高い学習計画への指針ができつつあります。詳しくは各学年の基本方針をご覧ください。今後ご家庭のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

各学年の在宅学習の基本方針

在宅学習が始まり、約1ヶ月が経過しようとしています。突然のサーキットブレーカーへの突入及び在宅学習のスタートであったにもかかわらず、本校の在宅教育へのご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

オンラインを活用した在宅学習への取組は、本校にとりましても初めての試みでございます。この1カ月間、よりよい在宅学習はどうあればよいか。職員一同、日々、試行錯誤を重ねてまいりました。

先日のPTAアンケートでは、Meet について特にたくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございます。ありがとうございました。「45分間の授業の間、Meet につないだままの授業をお願いしたい。」逆に「もっと、個人の課題に取り組む時間がほしい」など様々なご意見がございました。Meet は双方向のコミュニケーションがとりやすく、魅力的なツールでございます。その反面、接続が安定しない、Meet の画面や音が集中を阻害するなどの課題も浮き彫りになってきました。そこで、本校では Meet の使用頻度や接続時間のみ高めるという視点ではなく「Meet をどのように活用すれば高い学習効果を生むか」という視点で取り組むこととしました。児童の発達段階を踏まえながら、それぞれの学年に相応しい授業が展開できるよう今後も工夫改善を続けてまいります。例えば、1年生では Meet の接続回数を増やしながら、学習に集中することができる時間を長くしていき、学習期の児童に相応しい学習習慣を段階的に育成できるようにする。6年生では、チャットによる質問やドキュメントによる課題提出等の多様な学習方法を取りながら、レベルの高い学力の形成を目指していくといった具合です。

下記に各学年の在宅学習の具体的な方針を示しました。ご一読ください。

第1学年

○ Meet を使用しての学習について

現在、Meet による学習を段階的に増やしています。すべてのお子様が機器の操作に慣れ、無理なく取り組んでほしいと考えています。また、接続状況が不安定になることも想定し、Google Classroom に学習の流れや動画も掲載させていただいております。さらに、個人で学習に取り組む・作業をする際は、カメラが気になったり、お友達の様子が気になったりしてしまうので、Meet の接続をきり、みんなで学ぶ場と一人で集中する場のメリハリをつけることを意識しています。取り組んだ学習については、次に Meet を接続する際に状況を確認していこうと考えています。

○ 学習の内容について

1年生のこの時期（学校の入門期）は、学習の基礎を学ぶ場です。書く姿勢や鉛筆の持ち方、ひらがなの形・書き順などの基礎が、これからの学習習慣に大きく影響してきます。そのため、「丁寧に」「きちんと」取り組ませていきたいと考えています。課題の量もすべてのお子様がやり切ることができ、「できた」「がんばれた」と達成感を感じさせ、学習意欲にもつなげたいとも考えています。しかし、学習に取り組むスピードには個人差があります。課題が終わってしまったお子様が、授業時間（45分間）に学習に取り組めるように、チャレンジ課題を配信しています。（この課題は必ず取り組まなければならないものではなく、お子様の実態に合わせて取り組んでください。）

○ 保護者の方へのお願い

1年生の子どもたちは、ひらがなを習得していません。書くことができない子どもたちには、思ったこと伝える方法は話すことしかありません。Meet を使用して聞く場面も取り入れますが、すべてのお子様の考えを聞くことは困難です。そこで、できる範囲で構いませんので、子どもの考えを聞いていただけたら幸いです。

※ご家庭の支援のおかげで取り組むことができます。毎日ありがとうございます。

第2学年

○ 在宅学習の基本方針

- ・在宅学習でも、規則正しい学習のリズムを作る。
- ・学校での学習活動にスムーズに移行できるようにする。

○ 在宅学習の方法

【Meet】

- ・Meet をコミュニケーションツールとして取り入れ、生活や学習の習慣を整える。
- ・8:25 と 11:50 に Meet を行う。教師や友達と顔を合わせて、必要に応じて Meet の回数を増やし、その学習のポイントを伝える。
- ・朝の Meet では、その日の学習予定を伝え、学習活動の見通しをもたせる。
- ・漢字の書き順やポイントを押さえて、1時間目の新出漢字の学習に取り組ませる。
- ・絵本や紙芝居の読み聞かせを行い、児童が楽しく在宅学習を始められるようにする。
- ・昼の Meet では、答え合わせや学習発表などの振り返り活動を行う。朝の Meet で、昼の Meet で行う内容を事前に伝えておくことで、前向きに学習に取り組めるようにする。

【Classroom】

- ・各授業では、学習活動が円滑に進むように、Classroom に課題の詳細を記載する。
- ・学習補助として、国語や算数ではノートの手本や答えを、体育や生活科では動画や画像を掲載し、学習活動がスムーズにできるようにする。

○ 今後の取り組み

- ・国語や算数以外の教科も取り入れて、児童の学習活動の意欲を持続させる。また、様々な活動を組み合わせて、学習活動のバランスを考えた授業づくりをし、児童の集中力を持続させる。

～保護者の皆様へ～ 日々の在宅学習に児童が安心して取り組めるのは、保護者の皆様のお力添えのおかげです。ありがとうございます。今後も、生活面や学習面において、ご協力をお願いすることがあると思います。何卒ご理解とご支援をよろしくお願い致します。

第3学年

○ 在宅学習の基本方針

- ・規則正しい生活リズムを作る。
- ・在宅学習中に児童の学習が著しく遅れることがないよう、適切な課題を出す。
- ・学校再開後、円滑に学校生活をおくれるよう、できる限りの関係づくりをする。

○ 在宅学習の方法

<学習課題の提示>

- ・各授業では、classroom に活動内容を記載している。活動のねらいや学習の流れを児童が明確にとらえられるよう、端的に課題を提示する。
- ・在宅学習コンテンツや動画を積極的に活用し、一人ひとりの興味や学習進度に合った学習を行う。またノート見本の画像を示し、ノート指導に取り組む。
- ・classroom のコメント欄にて、質問や意見、感想を確かめながら、迅速に対応する。

<meet の活用>

- ・朝の会で決められた時刻に meet を使用することで、生活のリズムを整える。
朝の会では、一日の予定を確認し、学習活動の見通しをもたせる。顔を見て話しをすることで、児童の健康状態を見取るなど、教員の児童理解を図る。友だちの顔を見たり、声を聞いたりすることで、学級としてのつながりを感じられるようにする。
- ・授業中は、つまずきや質問が予想される展開に合わせて、meet を接続して支援を行う。また、考えや感想を他者と交流し、自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定し、効果的に meet を使用していく。

○ 保護者の皆様へ

毎日の在宅学習は、温かいお力添えをいただき、ありがとうございます。誰もが無理なく安心して行える在宅学習を目指して、3年部教員一同、努力して参ります。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

第4学年

子どもたちに「学校と同質の授業を」「分かりやすく楽しい授業を」の2つをモットーに、学年の教員が「ONE TEAM」となり日々の在宅学習に臨んでいます。授業での子どもたちの様子や反応、学習感想をもとに、学年の教員で一日2回の話し合いをもちながら、日々の授業作りと授業改善に励んでいます。

○ 在宅学習の基本方針

「学校と同質の授業を」に関しては、「授業めあての明確化」「45分の流れのプランニング」を意識して取り組んでいます。当初はclassroom内に明記された課題や添付されたスライドを読み、個人で取り組む形式を取っていましたが、より学習効果を上げるため、「meetを取り入れた授業」を最近では行っています。授業開始時に全員でmeetに繋ぎ、一斉授業形式にて、復習、めあて・授業の流れ・課題の確認等を行っています。また必要に応じて、後半に答え合わせ、成果の確認、考えの交流をmeetで行っています。全教科、一授業通してではなく、「教科の特性」や「授業内容」を見極め、meetを活用しています。

「分かりやすく楽しい授業を」に関しては、「子どもたちへのフィードバック」「モチベーションの維持」を意識して取り組んでいます。テストや課題等をgoogleformで作り、学習の達成感や理解度がすぐに実感できる工夫をしています。また、子どもたちの学習感想には、教員が一人ずつコメントし、振り返りを子どもたちと共にしています。更に、授業中はmeetを通して子どもたちの質問に答えたり、個別指導も行ったりしています。今後は学校再開後も見越して、新たな教科やより教科書に沿った内容の授業作り、宿題等を活用した学習内容の定着を図っていきたいと考えております。

○ 保護者の皆様へ

保護者の皆様におかれましては、大変な状況の中にも関わらず、日々の在宅学習への多大なるご理解とご協力、本当にありがとうございます。こういう大変な状況だからこそ、「子どもたちにとって」という教育の原点と「お互いの心配り」を大切に尽力して参ります。

第5学年

○ 在宅学習の基本方針

①45分間の学び ②友だちとの学び合い

○ 学習方法

- ・毎時間の始まりと終わりは、meetで対面授業を行う。
- ・自力解決の時間を確保。
(スライドや自作動画、youtube、スタディサプリを有効的に活用)
- ・友達との学び合いの時間の確保。
- ・児童は課題を提出し、教師はフィードバックを行う。
- ・午後は、未提出の課題に取り組んだり、宿題を行ったりする。

○ 学習の内容

各教科、教科書に沿って学習していく。

- ・授業の始めにmeetを使うことで、前時の振り返りを行って定着を図ったり、本時のめあてに迫ることができる導入を行ったりする。
- ・自力解決の時間には、スライドや動画を有効に活用することで、個人のペースで学習できる工夫を各教科で行い、より理解が深まるようにする。
- ・より教室での授業に近い体制で授業を行いたいという思いから、授業の終わりにmeetを使い、友だちとの学び合いをする。

○ 保護者の皆様へ

在宅学習が始まって約3週間。「おはようございます。」毎朝meetで聞く声、そして表情が日を増すごとに明るくなってきました。パソコンの画面の向こうで、真剣に学習する様子、発表したい！と手を挙げる姿、日々私たちの目は画面にくぎ付けです。学びたい！そう思っている子どもたちのために、私たち5年部、一丸となって教材研究に取り組んでいきます。

第6学年

○ 在宅学習の基本方針

- ・児童同士が学び合うことのできる環境づくり。
- ・児童と教師のコミュニケーションが取れる授業づくり。

○ 在宅学習の流れ

- ・朝の会（meet）...出席確認。1・2時間目の授業説明。スピーチ。
スピーチ活動と質問をする時間を確保し、児童の横の繋がりを強めます。
- ・2時間目終了後（meet）...1・2時間目の復習。3・4時間目の説明。
- ・帰りの会（meet）...3・4時間目の復習。午後の宿題・課題について。
- ・休憩時間...上記以外は、教師も入り、児童が meet で自由に話せる時間としています。
- ・午後の時間...残った課題・宿題（算数ドリルの宿題を出しています。）

○ コミュニケーションのある授業づくり

- ・主な教材...教科書・スタディサプリ・自作動画・YouTube・スライド
- ・meet 以外にも、授業中はコメントを使った質疑応答もしています。
- ・提出物は主にドキュメント・写真で提出させています。コメントを入れてフィードバックを行うなどしています。
- ・国語科では meet のグループをクラスに 10 個作りグループ活動を行いました。道徳科では友だちの意見を見ながら考えるため、1 枚のスプレッドシートに全員で考えを書きました。課題もありますが、より良い授業のため、学年でチャレンジを続けています。

○ 保護者の皆様へ

子どもたちの「ありがとうございます！」が身に沁みています。自力で学習を進められる子が多いようですが、見えないところで助けを頂いていることと思います。保護者の方々のご協力、子どもたちのやる気があってこそ、この非常事態の中、授業を進めることができていると感謝しております。引き続きご協力をお願いします。

特別支援

保護者の皆様におかれましては、大変な状況にも関わらず、日々の在宅学習へのご理解とご協力に感謝申し上げます。

○ 在宅学習の基本方針

- ・在宅においても、生活リズムを整え、学習習慣を維持することができるようし、自律した生活を目指す。

○ 在宅学習の方法

- ・児童、保護者、教師 3 者が共に無理なく継続できる学習内容、時間設定をする。
- ・1 日に 1 人 1 時間は、Meet を介して授業を行い、個別指導をする。
- ・通級指導教室（スカイ）については、在籍学級と時間をずらし、午後に授業を行う。
- ・Meet は接続状態が不安定な場合もある。そのような場合でも、学習を継続できるよう Gmail で連絡を取り合ったり、Classroom に指示や説明を示したりし取り組むことができるようにする。

○ 在宅学習の内容

- ・すべての児童が、在宅生活の中で学習習慣を身につけることができるようにする。特に、低学年児童は学校再開後を見通し、学習の習慣づけを行うことに重点を置く。
- ・高学年の児童においては、教科書の内容を中心に単元を進めることに重点を置く。（オンライン授業でできる内容を精選するため、単元を入れ替えることもある。）

交流学級の参加と課題への取り組み（スター・サンシャイン）

- ・交流学級への Meet 参加については、本人の実態と保護者の願いを考慮しつつ、今後も進めていく。交流学級と同じ課題に取り組む場合についても、同様の対応を行い、内容の調整を図る。

子どもたち、保護者の皆様、担任及び担当にとっても長い在宅学習期間になります。お互いに悩みも出てくることと思います。共に力を合わせこの取り組みが、学校再開後の子どもたちによりよく返っていくよう、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。